

作成（2024 年度）

簡易版 TP（ティーチング・ポートフォリオ）

氏名	富安 聡
所属機関名	理学部 臨床生命科学科
職位	講師
在籍年	3 年

主な担当授業科目、教育の責任

① 担当科目

病理検査学 II、一般検査寄生虫学、一般検査寄生虫学実習、国家試験対策

② 教育の責任

学科の専門教育において、臨床検査技師国家試験の主要科目である病理検査学、一般検査学分野の教育を担当している。臨床検査技師としての自身の経験を活かし、その責任ある業務内容とその面白さについて伝え、指導することで、学生が持つ資質を伸長させる。

教育の理念

①社会に貢献できる臨床検査技師の育成

臨床検査に関する高度な専門知識と技術を備え、責任をもって職務を遂行しうる能力、チーム医療に貢献できる能力、豊かな人間性と高い倫理観を身につけた人材の育成を目指す。

② 探究心を育む

臨床検査技師となった後も、様々な専門分野の学会に参加し、発表する機会が巡ってくる。そのため、医学・臨床検査学分野の発展に貢献できる探究心と研究能力を兼ね備えた臨床検査技師の育成を目指す。

教育の方法・方針

① 臨床現場での実際を伝える

病院や検査センターなど臨床で実際に使用されている検査機器や臨床検査技師の仕事を動画や写真で紹介し、講義や実習で学ぶ内容がどのように臨床で活かされるかを知ってもらう。

② 臨床現場を意識した実習を実施

臨床の現場で意識すべき、コストパフォーマンス、Turn Around Time に加えて、分析学分野の実習では検査法を学ぶだけではなく、検査の精度と正確度を意識させると共に、検査値から病態を読み解く力を養っている。形態学分野の実習では、臨床検査技師として顕微鏡を正しく使い、正確な観察技術を修得する必要があることから、顕微鏡の使い方を徹底する。また、実際に学生が鏡検する組織や細胞のバーチャルスライドや写真等を使って、形態学的特徴を学生と共有することで、観察すべきポイントを明確にする。

③ 国家試験を意識した講義資料の作成

国家試験を見据えて、学生が覚えるべきことを明確化にすることで、学生が勉強をするうえで重要なポイントを把握できるようにする。

教育の成果

① 授業アンケート結果

- ・病理検査学Ⅱ：満足度（満足＋ほぼ満足）は 100％であった。
- ・一般検査寄生虫学：満足度（満足＋ほぼ満足）は 93.5％であった。
- ・一般検査寄生虫学実習：満足度（満足＋ほぼ満足）は 96.7％であった。
- ・全担当科目を通じて授業アンケートのコメントとして、「楽しかった」、「分野の理解が深まった」、「わかりやすかった」など好評な意見が多かった。

② 国家試験合格率の向上

2021 年度：56％（入職前）→ 2022 年度：82.6％（入職 1 年目）、2023 年度：82.8％（2 年目）
→2024 年度：95.2％（3 年目）

教員が一丸となって国家試験対策にあたり、これまでの低かった合格率を向上させることができた。

今後の目標

① 臨床検査技師を目指す学生が興味を持つような臨床現場で活きる講義および実習の実施

自身の臨床検査技師としての臨床現場での経験を活かし、教科書にはない臨床現場目線のポイントを提供する。さらに、講義や実習の内容がどのように臨床現場で活かされているか提示をし、学生の講義や実習に対するモチベーションを高める。

② 分かりやすさを追求するとともに、何を学んでほしいのかを明確化する

授業アンケートでは分かりやすいというコメントもあるが、現状にとどまらずブラッシュアップをし、臨床検査技師として重要な知識・技術を伝えていく。

③ 学生が質問しやすい環境づくり

授業中・授業後の学生から質問がないため、Google フォームを使って出席確認を取ると共に、質問を受け付け、質問に対して、メールあるいは講義でフィードバックできるようにする。

④ 国家試験合格率の向上と高い合格率の維持

合格率 100％を目指し、高い合格率を維持できるように国家試験対策力を入れていく。また、成績が伸び悩む学生に対して、早めに介入し、個別対応することで合格への道筋を示す。

根拠資料

- ・2024 年度授業アンケート
- ・講義資料および国家試験対策資料
- ・国家試験合格率 学科内まとめ